

平成27年度

事業計画

社会福祉法人 浜松市社会福祉事業団

目 次

□	基本理念	1
□	経営方針	2
1	事務局（法人本部）	3
2	友愛のさと診療所	9
3	療育センター	12
4	子どものこころの診療所	15
5	児童発達支援センター「ひまわり」	17
6	浜松市発達支援広場事業	23
7	相談支援事業所シグナル	25
8	発達相談支援センタールピロ	27
9	福祉センター	29
10	生活介護・就労継続支援施設「かがやき」	31
11	就労継続支援施設「はばたき」	33
12	障害者生活介護施設「ふれんず」	35
13	地域活動支援センター「オルゴール」	37
14	身体障害者福祉センター	39
15	障害者体育館及びプール	40
16	共通事項	41

1 基本理念

ともに あゆむ

理念／Belief

すべての人の生命に安全を
すべての人の生活に安心を
すべての人の人生に輝きを

私たちは、支援を必要とする方々のLife(生命・生活・人生)を支えるために、考え、行動します。

使命／Mission

医療と福祉の専門性を通して

1. 支援を必要とする方々（本人、保護者、支援者も含めて）が、自らの価値に気づき、輝いた人生を送るための、よき伴送者（ライフサポーター）となる。
2. 支援を必要とする方々（本人、保護者、支援者も含めて）の人生をつなぐ軸（ハブ）となり、安全網（セーフティーネット）となる。
3. 「特別な人による 特別な人のための 特別な支援」ではなく、「誰もが、支援を必要とする方々のための、当たり前支援」が行える世の中となるために、新たな文化を創造する。

2 経営方針

① 浜松市の親子のために

「乳幼児から学童期までの一貫した療育支援体制の強化」

乳幼児期から幼児期にかけての初期の発達の「遅れ」や質的な「歪み」、機能獲得の困難が生じているあらゆる子ども達とその保護者に向けて、早期からの療育的な介入や支援が重要であるとの考えのもと、浜松市の親子が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう引き続き専門的なサービスを提供する。

② 市民のニーズにあった福祉施設の運営

「利用者様から地域から信頼いただける質の高いサービスの提供」

浜松市の障がいのある児者の在宅支援の拠点として、市民のニーズに応える日中活動施設として、「利用者様から信頼していただける質の高いサービス」の提供を目指し、利用者の社会参加や自立の促進、生きがいを目的とした支援を行う。

③ 地域から愛される施設づくり

「地域福祉の拠点施設として豊かな地域福祉社会の形成に寄与」

障がい者福祉のさらなる向上に努め、各種事業で培われた医療・福祉サービスについての知識や技術及び情報について、地域住民へ伝えていく場を多く設定し、福祉に対する関心を地域全体で高めていけるように取り組む。地域福祉の拠点施設を運営する法人として住民の方に認知される施設づくりを目指し、豊かな地域福祉社会の形成に寄与する。

④ 法人運営の自立化及び健全化

「法人の組織強化と充実したサービスを提供するための経営基盤の安定化」

医師の安定的な確保による医業収入の増や、福祉施設の安定した運営により自立支援費等収入の増に努める。また、全職員が経営参画意識を持ち、さらなる経費節減に努めて経営基盤の強化を図る。また、サービス提供方法の標準化、研修制度の充実等により人材育成をさらに推し進め、「最少の経費で専門的で質の高いサービス提供」ができるよう、法人全体で職員の専門性が十分に発揮できる組織づくりを行う。

4つの機能



事業計画

1 事務局（法人本部）

1 経営目標

- (1) 保健・医療・福祉が連携した浜松市の障がい者福祉の拠点施設として、『誰もが住み慣れた地域で安心していきいきと暮らすことができる』よう専門的で質の高いサービスを提供する。
- (2) 地域の福祉ニーズに的確に対応し、豊かな地域福祉社会の発展に寄与する。
- (3) 継続的なサービスを提供できる健全な経営を行う。

2 重点項目

浜松市社会福祉事業団の強みである「高い専門性」と「地域との連携力」を生かし、「マネジメント力（組織・個人）」を強化する「人材確保・人材育成」に重点的に取り組む。

- (1) 「採用」、「研修」、「異動」、「人事考課」、「給与」、「昇任」、「施設運営」を有機的に結びつけた人材育成制度のトータルシステム化を進め、各制度の相乗効果を高めて人事管理制度を強化する。
- (2) 職員募集において、積極的な情報発信や効果的な募集活動を行うとともに、浜松市社会福祉事業団のポジティブイメージを「PR」する募集方法を検討する。
- (3) 職員が自ら企画、参加する研修や資格取得に対して、助成制度を構築する。
- (4) 職員の能力や成果、意欲を尊重したキャリア形成を支援するため、ジョブローテーション、自己申告制度、派遣研修等を実施する。
- (5) 人事考課の効果結果などを昇給や勤勉手当に反映する等職員の勤務成績を反映した給与システム、人材登用を検討する。
- (6) OJT を核とした人材育成システムを構築し、職場運営を通じた計画的な人材育成を推進する。
- (7) 平成27年度会計から新会計基準を導入する。それにともない、サービス区分を事業ごとに分け、それぞれの事業別に収支状況の管理を行う。
- (8) 中期経営計画（平成27年度から平成30年度）の進捗管理を行う。

3 主な事業

項 目	事 業 内 容
(1)理事会・評議員会	理事会・評議員会を概ね年2～3回開催する。(5月、3月)
(2)監査	監事による定期的な監査を年2回行う。(5月、11月)
(3)諸規程の制定・改廃	法改正、その他社会情勢の変化等に合わせた諸規程の制定・改廃等を行う。
(4)事業・会計の統括	事業計画、予算のとりまとめ、事業報告、決算による検証作業や相談、助言を行う。 また、顧問税理士事務所の指導のもと、安定した経営を行うための経営分析を行い、必要な場合には改善を行う。
(5)人事・労務管理	顧問社会保険労務士や産業医の指導のもと、働きやすい職場環境づくりに努める。 また、ワーク・ライフ・バランス、男女共同参画の推進等に努める。
(6)社会保険・労働保険 ・給与計算事務	法令改正等により、複雑化する社会保険、労働保険制度に適切に対応するため、社会保険労務士事務所に委託し、社会保険・労働保険に関する諸手続き並びに給与計算事務を行う。
(7)職員の福利厚生	被服等の貸与、健康管理、その他福利厚生を行う。
(8)会議・委員会	経営会議、調整会議を毎月2回程度開催する。

4 人材育成(職員研修計画)

(1)事業団職員としての基本的な考え方や姿勢を身につけるとともに、各職員の立場や役職、携わる専門分野の知識や技術を深め、質の高いサービスの維持・向上を図るため、内部研修、外部研修を実施する。

なお、内部研修の実施にあたっては、静岡県社会福祉協議会の社会福祉事業振興のための助成金等を活用する。

(2)新規採用職員については、事業団職員としての心構えや職務遂行能力の早期習得を図り、職場に早く順応できるようチューター(指導員)を配置し、指導及び助言を行う。

(3)定期的に「外部研修報告会」を実施し、研修内容を他の職員に還元する。報告会を聴講する職員が、様々な研修の内容を知り、情報の共有をすることにより、職種間の連携を円滑にし、利用者のニーズに的確に応えられることを目指す。

(4)職務上の課題に積極的に取り組み、法人全体のサービスの質の向上及び充実と職員の専門性の向上に資することを目的に「全国社会福祉事業団職員実践報告・実務研究論文」に応募し、入選を目指す。

また、法人内部で実施する「事業団職員実践報告・実務研究発表会」にて取り組みの成果を発表する。

【職員研修計画】

研修分類		研修内容	対象者
内 部 研 修	新採職員研修	新規採用研修	新規採用職員
		チューター研修	新規採用職員・チューター
		金曜勉強会	新規採用職員・希望職員
	階層別研修 (職務級別研修)	1級・2級研修(一般職員研修)	1級・2級職員(一般職員)
		3級・4級研修(リーダー職員研修)	3級・4級職員(主任・副施設長・副主任)
		5級研修(管理者研修①)	5級職員(施設長・事務長・副所長等)
		6級研修(管理者研修②)	6級職員(所長・主幹)
	テーマ別研修	接遇・ビジネスマナー研修	全職員
		事務・会計研修	事務・会計担当職員他
		部会・委員会関係研修	全職員
		マネジメント研修	主任以上
	実践報告・実務研究	福祉実践発表会	福祉施設職員等
事業団職員実践報告		全職員	
外 部 研 修	管理・経営・人材育成・交流関係研修		管理職、担当者他
	監査関係研修		監査担当者
	会計事務研修		財務担当者
	階層別研修	リーダー職員研修	リーダー的職員
		施設長等運営管理職員研修	施設長等
	業務資格関連研修	相談支援従事者初任者研修	相談支援専門員候補者
		サービス管理責任者等研修	サービス管理者等の候補者
		相談・サビ管等現任研修	資格更新研修(5年ごと)
		社会福祉士実習指導者講習会	社会福祉士実習担当者
	専門研修等	各種学会	対象者
		専門分野研修、講演会	対象者
		視察	対象者
部会・委員会関係研修		部会・委員会担当者他	

5 部会・委員会組織による取り組み

(1)情報発信の強化

利用者が利用しやすい施設となるよう、また、一層透明性のある経営に取り組むため、事業報告書、決算報告書、監事監査意見報告書を各事業所に配置し、閲覧できるようにする。

また、事業団の事業内容を広く市民に知ってもらうため、「使いやすく、見やすいホームページ」を目指す。

(2)個人情報保護

個人情報保護基本方針を各事業所に掲げ、利用者へわかりやすく説明することを心がける。基本方針に基く利用者個人の権利利益保護のため、個人情報の共有化を図りつつ、適正な取扱いに努める。

運用面の維持については、個人情報部会により、法令改正等に速やかに対応する。

(3)苦情解決

提供するサービスに対する利用者の満足度を高めるため、各事業所に意見箱を設置し、利用者からの意見を随時受け付ける。また、苦情解決部会が中心となり迅速かつ適正な対応を心がけ、利用者個人の権利擁護に努め、利用者が医療・福祉サービスを適切に利用できるよう支援する。

(4)危機管理

利用者の安全・健康を適正に確保するため、リスクマネジメント部会により危機管理に関する情報を集約、分析し、対応策を検討する体制を維持する。

事故の未然防止を図るため、事故に関する情報だけでなく、ひやりとした経験(ヒヤリ・ハット)に関する情報も集約し、対応策を含めて職場内で共有する。また万一発生した事故に対して迅速かつ適切な初動体制がとれるよう、職員向け研修会の開催、訓練の実施やマニュアルの見直し等を行う。

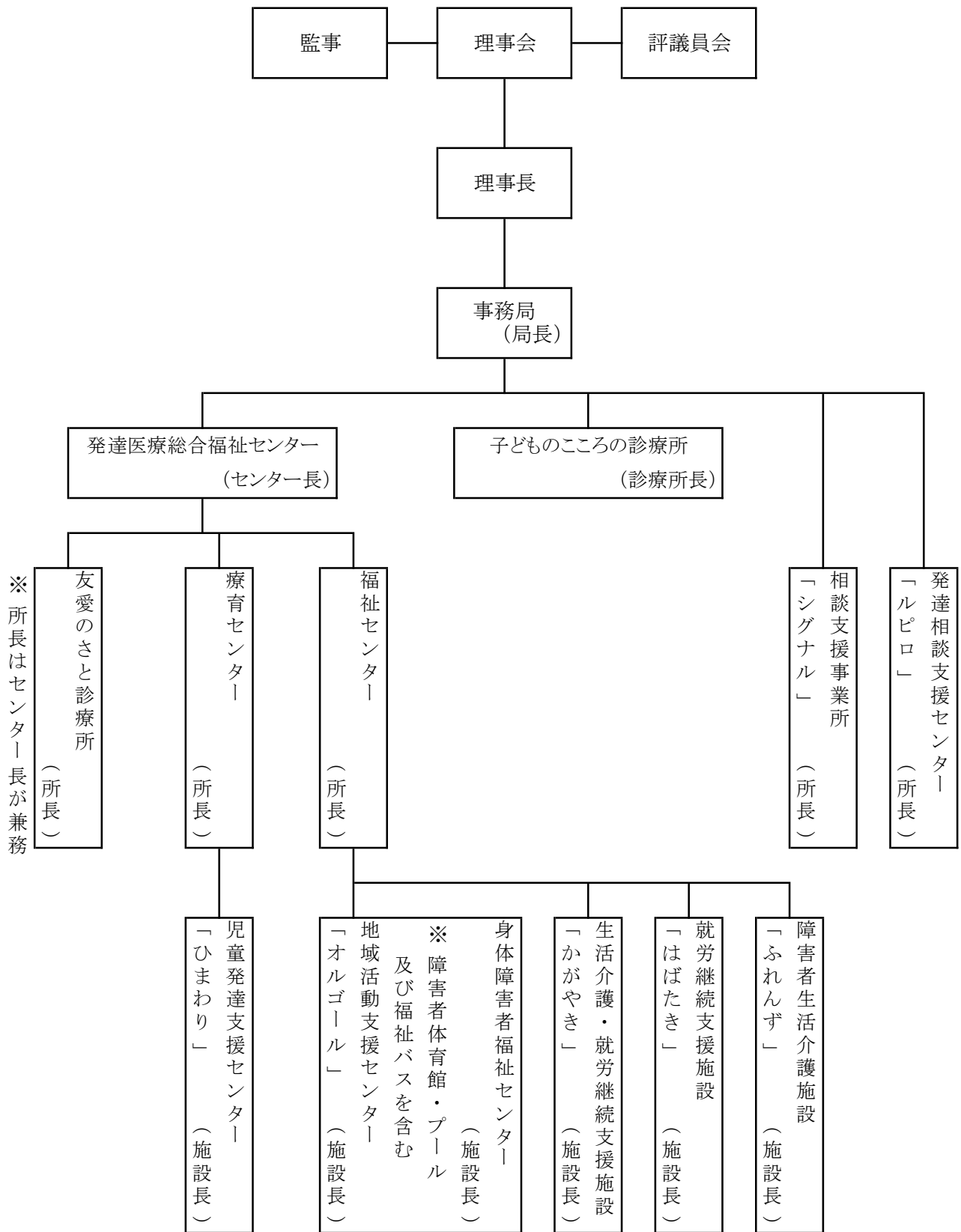
(5)防災体制

施設の利用者は移動困難な方が多いことから、台風、大雨、洪水、地震、津波等の、災害発生時の被害を最小限に止め、災害からの復旧に努めることに万全を期す必要がある。

そのため、防災部会により随時防災計画を見直し、定期的に防災訓練を行う(全館同時訓練、施設単独訓練)。また、備蓄用品の更新、整備を行う。

浜松市発達医療総合福祉センターは浜松市との間で福祉避難所として指定される協定を締結していることから、浜松市の避難所運営マニュアルの策定にあわせ、福祉避難所の開設を想定した体制の整備、訓練を行っていく。

6 組織図



7 職員配置予定人数

(平成27年4月1日現在)

施設等 職種	発達医療総合福祉センター													子どものこころの診療所	計
	事務局長	事務局	相談支援事業所 シグナル	発達相談支援センター ルピロ	友愛のさと診療所	療育センター	福祉センター								
							ひまわり	身体障害者福祉センター	地域活動支援センター	かがやき	はばたき	ふれんず			
支援員	1	5 (2)	4 (4)	2 (3)	1 (3)		2 (6)	1 (15)	1 (4)	7 (8)	2 (4)	5 (8)	3 (3)	34 (60)	
医師					3 (11)								1 (10)	4 (21)	
薬剤師							1							1	
保健師		1	3											4	
看護師					3		1 (1)			(1)		1 (1)	1 (1)	6 (4)	
臨床心理士		1		4 (5)		4 (5)	1 (1)						1 (7)	11 (18)	
診療放射線技師					1									1	
臨床検査技師					1									1	
言語聴覚士						3 (1)							3 (1)	6 (2)	
理学療法士						3						(1)		3 (1)	
作業療法士						3 (1)	1							4 (1)	
視能訓練士						1								1	
管理栄養士							(1)							(1)	
保育士			2 (1)				12 (17)						1	15 (18)	
計	1	7 (2)	9 (5)	6 (8)	9 (15)	14 (6)	17 (27)	2 (15)	1 (4)	7 (9)	2 (4)	6 (10)	10 (22)	91 (127)	

※ 注1 ()内の数字は非常勤医師、再雇用職員、準職員及び臨時職員の人数で外書き
 ※ 注2 産休・育休の代替職員は含んでいない。

2 友愛のさと診療所

[拠法令等：医療法第7条第1項、障害者総合支援法第5条第8項]

診療科目	診療日
小児科	月～金曜日
精神科	月～金曜日
整形外科	第2・第4金曜日
眼科	月曜日
耳鼻いんこう科	第1・第3火曜日

1 運営方針

医師の専門性や採算性等の理由により、他の医療機関での診療が困難となっている児童精神医学領域および小児神経医学領域の患者に対して、「浜松市の親子のために」をスローガンに専門医療サービスの提供を適性かつ円滑に行っていく。

また、浜松市の各専門機関や行政機関と緊密な連携を行い、社会的信頼を得るとともに社会貢献に努める。

2 重点項目

<診療部門・リハビリ部門>

- (1) 平成26年度に引き続き常勤医師3名により、受診待機者が増えないような体制を維持する。
- (2) 平成27年度10月より、訪問看護・訪問リハビリテーション事業を開始する。現在、診療が必要であるにもかかわらず、通院が困難な患者様が多数おられ、その方々に対し訪問看護・訪問リハビリテーションを行うことにより、より充実した医療を提供し、介護者の負担も軽減させることを目的とし、職員配置および設備を確保し、平成30年度までに収益をあげられるようにする。 **新規**

<心理部門>

- (3) 臨床心理士による発達障がいのある子どもの家族に対するペアレント・トレーニングを、ニーズに対応して開催回数を増やす。 **拡充**
- (4) 学習障害がある子どもへの読み・書きに対しての学習方略を学ぶためのグループ指導を実施するとともに緘黙等の特殊なあらわれを持つ児の保護者同士の情報交換の場を設ける。 **新規**

<リハビリ部門>

- (5) 重症心身障がいのある子ども、成人に対し、理学療法士による姿勢管理や呼吸介助・排痰介助の指導、パーカッションベンチレーター等の使用による呼吸機能維持、整形外科治療やボトックス治療との連携等の効果的なリハビリテーションを実施する。
- (6) 言語聴覚士による摂食・嚥下機能障がいのある児(者)に対する摂食・嚥下訓練・指導の充実を図りダウン症児に対しての摂食指導グループを実施する。 **新規**
- (7) 作業療法士による発達障がいのある児(者)に対する感覚統合訓練等の充実を図る。
- (8) 箸の使い方、自転車の乗り方についてのリーフレットを作成する。 **新規**

3 主な事業

3-1 診療事業

項目	事業内容	計画件数等			
(1) 診療事業	一般外来、乳幼児精密検査、予防接種等を行う。	診療実日数	243 日		
		延べ患者数	28,780 人		
		うち新患患者数	600 人		
		内	精神科	243 日	
				14,280 人	
			小児科	243 日	
				13,700 人	
			整形外科	24 日	
				300 人	
			眼科	45 日	
訳		400 人			
	耳鼻いんこう科	24 日			
		100 人			
(2) 診療事業 (訓練指導)	総合的な評価に基づき、治療方針を立て、個別訓練・療育を実施する。 個別指導	指導実日数	243 日		
		延べ患者数	18,300 人		
		内	理学療法	4,200 人	
			作業療法	3,900 人	
			言語聴覚療法	2,500 人	
			訳	視能訓練 (指導実日数 140日)	700 人
				臨床心理	7,000 人
			乳幼児に対する個別・集団指導 (※再掲)	早期支援グループ [もぐもぐ・パンダ]	80 回 300 人
				心理グループ支援 (※再掲) 集団指導	① 学童期の発達障がいのある児への小集団療育[SSTグループ]
		② 青年期前期の発達障がいのある男子小集団支援[ゲームクラブ]			2 回 10 人
	③ 次年度就学を控えた発達障がいのある児の小集団支援[学校ごっこ]	6 回 36 人			
	④ 学童期から青年期の発達障がいのある女子小集団支援[ガールズクラブ]	3 回 12 人			
	⑤ 発達障がいのある児の親支援[ゲームクラブ親の会]	2 回 10 人			
	⑥ 発達障がいのある児の親への育児支援[ペアレント・トレーニング]	36 回 216 人			
	⑦ 学習支援グループ「よみ」	6 回 18 人			
	⑧ 学習支援グループ「かき」	6 回 18 人			
	⑨ かんもく児親グループ	6 回 24 人			

項目	事業内容	計画件数等
	ピアクラブ 作業療法、言語聴覚療法の個別指導を終了した学童期の小集団指導	43 回 350 人
	学童期吃音児への小集団支援	7 回 70 人
(3) 薬局	院内処方 院外処方	80 件 4,300 件
(4) 各種検査	診断に基づき、各種検査等を行う。	ア X線検査 150 件 イ 脳波検査 100 件 ウ 聴性脳幹反応検査 10 件 エ 聴力検査 30 件 オ 言語発達検査 30 件 カ 超音波検査 5 件 キ 血液検査 200 件 ク 尿検査 30 件 ケ 検査記録の管理 随時 コ 検査機器、検査室の整備維持管理 随時

3-2 医療型特定短期入所事業

浜松市から医療型短期入所事業を受託し、医療的ケアが必要な重症心身障がい児(者)を対象に、日中預かり(短期入所サービス)を行う。	230 人
---	-------

3-3 訪問看護事業

新規

在宅介護を受けているが通院が困難であり定期的な医療を必要とする方に対して、適切な看護サービスの提供を行う。	300 人
---	-------

3-4 訪問リハビリテーション事業

新規

在宅介護を受けているが通院が困難であり定期的な医療を必要とする方に対して、適切なリハビリテーションを実施	200 人
--	-------

4 自主事業

項目	事業内容	計画件数等	
専門性向上のための普及・啓発事業	高度な専門性を持つ外部講師を招聘した研修を実施	① 外部講師を招いた研修会及び事例検討会(心理:ABA研修会)	3 回 120 人
		② 外部講師を招いたリハビリテーションに関わる講演会	3 回 150 人
		③ 外部講師を招いた理学療法・作業療法・言語聴覚療法の実技指導	11 回 60 人
特別支援学校訪問指導事業	理学療法士、作業療法士による西部特別支援学校、浜北特別支援学校への訪問指導	学校生活における姿勢調整、作業活動、環境配慮等の指導の実施 12 回 60 人	

3 療育センター

1 運営方針

在宅の障がいのある子どもへのリハビリテーション及び地域療育を推進していく中核施設として、心身に発達遅れや障がいのある子ども、あるいはその疑いがある子どもとその家族を対象に、総合的、系統的な医学的発達援助と療育支援を行い、子どもの自立に必要な能力の開発を図り、障がいの早期発見、早期療育に努める。なお、これらの一連の発達援助を進めるにあたっては、各関係機関と密接に連携し、地域社会に信頼される療育と支援に努める。

2 重点項目

(1) 幼稚園・保育園及び学校への支援

① 教育委員会と協働で行っている「発達教育研修」について

臨床心理士による発達障害に関わる市内の教員研修の一部を、教育委員会からの要請を受け、協働で行う。

- ・小学校・幼稚園の現場へ出向き、発達障がい児にも理解しやすい小学校・幼稚園、教育のあり方について研修協力を行っていく。
- ・教育センターで開催される研修に講師を派遣する。

② 園・学校等訪問支援

障害児等療育支援事業として、幼稚園、保育園、学校、特別支援学校等へ、専門的な指導・配慮が必要な子どもより良い環境づくりのため、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士等を派遣し、助言を行う。

※児童発達支援センターひまわりで実施する保育所等訪問支援事業、保育所等巡回支援事業での支援は除く

3 主な事業

1 障害児等療育支援事業

項目	事業内容	計画件数等
(1) 訪問療育指導事業	① 作業療法士による訪問療育指導 集 浜松市から依頼を受け支援する 団 発達相談	6 回 12 人
(2) 障害児の通う保育所や障害児通園事業等の職員への療育技術指導	② 教育機関への支援 個 保育園、幼稚園への相談・訪問支援 別 小学校、中学、高校への相談・訪問支援 集 保育園、幼稚園への相談・訪問支援 団 小学校、中学、高校への相談・訪問支援	随時
	個 発達医療センターでの関係機関連絡会 別 (保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校)	180 件
	集 教育委員会との研修 団 「発達教育研修」	14 回
	③ 特別支援学校への支援 個 理学療法士、作業療法士、臨床心理士、視能訓練士による相談・支援事業	35 人
	集 理学療法士、作業療法士、臨床心理士、視能訓練士による相談・支援事業	14 回
	団	85 人

2 療育推進事業

項目	事業内容	計画件数等
(1) 親子交流あそび広場 (うずらちゃん広場)	発達の子と その保護者に遊びの 場を提供し、保護者 が相談できる機会も 設ける。 また、おもちゃの貸出 やプレイポートの開放 等を行う。	開催回数及び参加人数 30 回 720 人
	個別相談件数	30 件
	おもちゃ貸出	30 回
	プレイポートの一般貸出	60 回
		420 人

3 施設内部の連携、支援

項目	事業内容	計画件数等
(1) 療育施設等への支援	① 通所・通園施設への助言・指導	個別 臨床心理士による児童発達支援センター「ひまわり」の利用者への相談・支援を行う。 30人
		集 理学療法士による児童発達支援センター「ひまわり」の利用者への日中活動の相談・支援を行う。 36回 72人
		集 理学療法士による障害者生活介護施設「ふれんず」の利用者への日中活動の相談・支援を行う。 6回 12人
		団 作業療法士による児童発達支援センター「ひまわり」の利用者への日中活動の相談・支援を行う。 22回 110人
		集 作業療法士による生活介護・就労継続支援施設「かがやき」の利用者への日中活動の相談・支援を行う。 12回 24人
		集 臨床心理士による児童発達支援センター「ひまわり」の利用者への相談・支援を行う。 5回 150人
		団 児童発達支援センター「ひまわり」親子通園部における保護者とのグループワークを行う。 100回 800人

4 関係機関との連携

項目	事業内容	計画件数等
(1) 児童相談所との連携	虐待における関係者会議 (虐待会議、ケース情報交換会)	随時

4 子どものこころの診療所

【医療法第7条第1項】

診療科目	診療日
精神科(小児科)	月～金曜日

1 運営方針

- (1) 幼児期から学童・思春期にいたる発達障害や情緒障害を治療する専門機関として質の高い医療を提供する。
- (2) 医師による治療方針のもと、臨床心理士や言語聴覚士等による療育を実施し、子どもの症状の改善を図る。
- (3) 地域の教育機関・医療機関・福祉施設やその他の関係機関と連携を密にし、障がいがあっても安心して地域で生活できるよう、専門的知識を有する職員が適切な支援を行う。

2 重点項目

(1) 受診待機者を解消するために、安定した医師の確保により、医師4名による診療体制を維持するため、浜松医科大学及び国立病院機構天竜病院と連携を図る。

(2) 言語聴覚療法の希望者数増加に対応するため、患者の機能向上に必要な訓練頻度を確保する。また、言語聴覚士間で綿密なカンファレンスを行い、各言語聴覚士が均一な評価・訓練の精度を保ちながら、質的量的にも更なる向上を目指す。 **拡 充**

(3) 着席維持困難など言語聴覚療法に必要な訓練態勢が学習されていない患児に対し、言語聴覚士がさらに1名同席し患児に合った介助を行うことで、迅速な訓練態勢の習得を図る。また、今後の就園・就学等を見据えた言語コミュニケーション機能発達の為に必要な訓練(PECSを含む)、および視覚支援等を行う。

(4) 臨床心理士によるペアレント・トレーニングを集団形式・個別形式で実施し、個々の家庭のニーズに合わせたプログラムを提供する。

(5) 臨床心理士によるペアレント・トレーニングの修了後のフォローアップとして、親子で参加する集団形式の自己理解プログラム、就学準備プログラムなどの子どもグループを実施する。

(6) 信頼性の高い医療サービスを提供するため、受診患者より情報収集を積極的に行う。また、他部門及び他機関との連携を図り、家族を取り巻く情報の収集を行い、包括的な支援を実施する。さらに、インターク技術のスキルアップを図り、医療福祉制度について常に最新の情報を提供できるようにする。

(7) 精神保健福祉士または看護師による訪問看護を試験的に導入し、その効果について検証していく。

新 規

(8) 社会福祉士や精神保健福祉士、言語聴覚士等の専門職をめざす学生実習を受入れ、福祉人材及び専門職の人材育成に貢献する。また、実習を受け入れることにより、専門職養成教育機関への情報発信を行う。 **新 規**

3 主な事業

項目	事業内容		計画件数等		
(1) 診療事業	一般外来を行う		診療実日数	243 日	
			延べ患者数		18,960 人
			うち新患患者数		900 人
(2) 診療事業 (訓練指導)	個別指導	総合的な評価に基づき、治療方針を立て、個別訓練や評価を実施する。	指導実日数	243 日	
			延べ患者数		5,460 人
			内訳	言語聴覚療法	2,960 人
				臨床心理	2,500 人
	トペ レ ア ー レ ニ ン ト グ ・ 等	①	集団形式	実施回数	200 回
				延べ患者数	800 人
		②	個別形式	延べ患者数	250 人
		③	修了後フォロー 子どもグループ	実施回数	18 回
			延べ患者数	72 人	
(3) 薬局	院外処方		8,800 件		
(4) 各種検査	診断に基づき、各種検査等を行う		ア 聴力検査	5 件	
			イ 血液検査	5 件	
			ウ 検査記録の管理	随時	
			エ 検査機器の整備維持管理	随時	
(5) その他の事業	インテーク面接(初診時間診)		700 件		
	他機関との連絡調整		随時		

5 児童発達支援センター「ひまわり」

[根拠法令：根拠法令等：児童福祉法第43条第1号、浜松市日中一時支援事業実施要綱、
浜松市保育所等巡回支援事業実施要綱]

		定員	法定配置基準	所定配置基準	職員配置 予定人数	事業所管理者	児童発達支援 管理責任者	合計
毎日 通園部	重症心身障がい児	10	4:1	3:1	6	1	1	8
	身体・知的・発達障がい児	60	4:1	4:1	28	兼務	1	29
親子通園部		10	-	(身体は3:1)	9	兼務	1	10
保育所等訪問支援・園・学校等訪問		-	-	-	兼務	兼務	1	1
保育所等巡回支援事業					2			2
合計		80	4:1	3:1	45	1	4	50

		開所日数	延べ利用者数	契約者数	1日平均利用者数	稼働率(%)
毎日 通園部	重症心身障がい児	230	1,840	13	8	80.0
	身体・知的・発達障がい児	230	14,950	78	65	108.3
親子通園部		230	3,220	125	14	140.0
合計		230	20,010	217	87	108.8

※毎日通園部は、年齢、障がい程度、発達状況に応じて「きらきら」(知的障がい児・発達障がい児)学年別3クラス、「ぽかぽか」(重症心身障がい児1クラス・身体障がい児1クラス)で編成する。

1 運営方針

心身の発達に遅れのある就学前の幼児を対象に、利用児への発達支援と保護者への養育支援及び地域子ども達への発達支援を行う。また、子どもの身体及び精神の状況ならびにその置かれている環境に応じて、適切かつ効果的に指導・援助を行うこととする。なお、これらの支援を進めるにあたっては、各関係機関と連携し、地域社会に信頼される支援に努める。

《基本方針》

児童福祉法に基づく「児童発達支援センター」事業として、児童発達支援、保育所等訪問支援等を実施し、利用児への専門的支援を行う。

- (1) 発達支援:日常生活における基本動作の指導援助と集団参加への支援に重点を置き、利用児一人ひとりに対して発達支援に取り組む。
- (2) 家庭支援:保護者から子育てについて個別面談や家庭訪問を行ったり、父親同士・母親同士による学習会を行ったりし、積極的に家庭支援を行う。
- (3) 地域支援:地域において、保育所等訪問支援事業、保育所等巡回支援事業などを実施し、一般園の保育者を支援する事業に取り組む。

- 療育目標 ①生活リズムを整えながら丈夫な身体作りをしていく。
 ②自分できることを増やす。
 ③人や物とのかかわりを育む。

2 重点項目

- (1) 通園児の発達支援の課題や具体的な支援方法について、専門的な視点をもった個別の支援計画を作成し、適切な支援を実施する。
- (2) 家庭内における子どもの困った行動に対して、家庭訪問を行い、相談援助を実施する。
- (3) 就園前の親子通園(きりんグループ)において、早期に介入することで親子療育の充実を図る。 **拡充**
- (4) 地域支援の一つとして、地域の幼稚園・保育園等の保育者を対象として、発達に特性のある児の理解という目的で勉強会を開催する。 **新規**
- (5) 浜松市内の児童発達支援事業所と情報交換や事例検討を行い、ネットワークの構築を図る。

3 主な事業

3-1 児童発達支援事業

《毎日通園部》

時 間	日 課
8:30 ～	開所、送迎バス運行
9:30 ～	自由遊び、個別面談等
10:00 ～ 11:30	朝の会、設定活動等
12:00 ～ 13:00	昼食、昼休み
13:00 ～ 14:00	設定活動(絵本、集団遊び等)
14:00 ～ 15:00	帰りの会、水分摂取、排泄
15:00 ～	送迎バス運行、個別面談、家庭訪問等
17:15	閉所

《毎日通園部》

項 目	事 業 内 容	計 画 件 数
(1) 療育指導	朝・帰りの会、クラス活動(散歩、戸外遊び、感覚あそび、音楽あそび、造形等)、合同活動(リトミック、マラソン、誕生会)等 日常生活動作および技能への支援	毎日
	臨床心理士との連携(ABA対応に基づく行動支援)	5 件
	個別課題支援(こっこタイム)の実施 (毎日通園児年5回)	300 回
	摂食に関する児について医療機関との連携	5 回
	作業療法士との連携(感覚統合に基づく支援)	48 回
	理学療法士との連携(姿勢・運動の支援)	24 回
(2) 衛生管理・健康管理	身体測定(月1回)、尿・ぎょう虫検査(年1回)、歯科検診(年1回)	14 回
	医療的ケアの実施(重心児7人、重心以外児4人)	1580 件
	嘱託医による回診	250 件
	嘱託医による定期健康診断(毎日通園児年2回)	174 件
(3) 家庭との連携	生活連絡カードによる情報交換、おたより帳の記入、園だより発行	延べ300回
	個別支援計画作成のための個人面談や家庭訪問	210 回
	保育公開日	2 回
	家族交流会	1回(延170人)
	お泊り保育(きらきら・ぽかぽか共に年長児を対象)	1 回
	運動会	2回(延170人)
	生活発表会	2回(延170人)
	祖父母参観会	1回(延50人)
(4) 家族支援	家族(父母、祖父母)対象の講演会の実施	1 回
	母親を対象:懇談会の実施(ペアレントトレーニング)	3 回
	保護者会「くすの木」の支援(写真、バザー等)	8 回
	父親を対象:父親参加会、勉強会、懇談会等の実施	5 回
	家庭での困った行動について対応策の検討及び訪問支援	5 回
(5) 進路相談支援	市教育委員会指導主事の講演会	2 回
	特別支援学校の体験入学・見学会	6 回
	学校との連携・移行支援会議	5 回
(6) 地域との連携	地域の保育園との交流保育を行う	6 回
	中学生の福祉体験、ボランティア受け入れ	3 回

《親子通園部》

(ア) 早期介入グループ

グループ名	対 象 者	年 齢	実施回数	グループ数(定員)
すくすく	染色体異常のある児とその保護者	1～2	36回/年	1グループ(10名)
こぐま	肢体不自由のある児とその保護者	年少小	41回/年	1グループ(10名)
きりん	知的障害や発達障害の疑いのある児とその保護者	年少小	156回/年	4グループ (1グループ10名)

拡充

項 目	事 業 内 容
(1) 療育指導	朝・帰りの会、設定活動(サーキット、音楽あそび、造形等)、排泄指導 食事指導
(2) 保護者支援	個別面接、グループワーク

時 間	日 課
8:30 ～	開所、個別面談、自由遊び等
10:00 ～ 10:30	朝の会、体操、排泄
10:30 ～ 11:00	設定活動(サーキット、音楽あそび、造形等)
11:00 ～ 11:30	おやつ、帰りの会
11:30 ～	個別面談等
17:15	閉所

(イ) 併行通園グループ

グループ名	対 象 者	年 齢	実施回数	グループ数(定員)
ひつじ	幼稚園・保育園へ通園している発達障がい児及びそのリスク児とその保護者	年少～年長	全120回/年	3グループ(10名)
くじら	幼稚園・保育園へ通園している発達障がい児及びそのリスク児とその保護者	年中・年長	全80回/年	4グループ(10名)

項 目	事 業 内 容
(1) 療育指導	始まり・終わりの会、設定活動(運動あそび、音楽あそび、造形、ゲーム等)、生活管理指導
(2) 保護者支援	個別面接、グループワーク

時 間	日 課
8:30 ～	開所、個別面談、自由あそび等
15:00 ～ 15:30	始まりの会、机上課題
15:30 ～ 16:00	設定活動(サーキット、音楽あそび、ゲーム等)
16:00 ～ 16:30	おやつ、帰りの会
～ 17:15	閉所

3-2 保育所等訪問支援事業

事業内容	計画件数等
保護者と事業の個別給付契約を行った後、申請により支援計画作成に基づいて訪問支援員が訪問し、安定した園生活を送るために必要な支援を行う。	135 人

3-3 保育所等巡回支援事業

事業内容	計画件数等
障がい児等を保育・教育する機関からの依頼により、専門職(保育士、臨床心理士、ソーシャルワーカー等)を派遣して支援方法の助言や技術支援等を行う。	190 回
巡回支援事業を実施した後、希望・依頼のある園に対して講師派遣等により支援を行う	5 回
巡回支援事業の対象園の保育者を対象に、講演会を実施する。	1 回

3-4 発達支援学級担当教育研修(浜松市教育委員会より依頼)

事業内容	計画件数等
浜松市教育委員会より依頼を受け、新しく発達支援学級を担当した教員の資質の向上を図るため、発達支援学級の経営・児童生徒の理解・教育課程の編成や指導法について、児童発達支援センター「ひまわり」にて実習及び事例検討を行う。	25 人

3-5 日中一時支援事業「すずらん」

事業内容	計画件数等
浜北特別支援学校の重症心身障害の生徒の放課後等の活動の場を確保し、障がいのある生徒の家族の就労支援及び障がいのある生徒を日常的に介護している家族の一時的休息を図る。	197 日
毎週月～金曜日午後1時30分～午後5時 (学校の休業日を除く。)	延べ433 人

4 自主事業

項 目	事 業 内 容	計画件数等
(1) 地域支援 新規 発達に特性をもつ児と関 わる保育者の勉強会	地域の幼稚園・保育園・発達支援事業所の職員を対象に、 発達に特性をもつ児への理解を深めていただくための勉強 会を行う。	1回
(2) 地域との連携 県福祉協会児童発達支 援部会研修会 臨時	静岡県知的障害者福祉協会児童発達支援部会の研修会の一環として県内の児童発達支援センター(事業所)職員を対象に、ひまわりを会場に実習や検討、講義等を行う。	3回

6 浜松市発達支援広場事業

[根拠法令等:浜松市発達支援広場事業実施要綱]

たんぽぽ広場

会 場	浜北保健センター	中央保健福祉センター
開催日時	毎週月曜日 午前	毎週水曜日 午前
対 象 者	1歳6ヶ月児健診等で発達の遅れやリスクを示唆された児とその保護者	
定 員	親子20組程度	

施設型

会 場	発達医療総合福祉センター
開催日時	月曜日～金曜日 午前 (1グループ月3回程度)
対 象 者	「たんぽぽ広場」等において就園前の継続的な療育的支援や発達支援が必要と判断された児とその保護者
定 員	親子15組程度(1グループ)

1 運営方針

市内で開催する浜松市発達支援広場事業(たんぽぽ広場7会場、施設型3会場)のうち、たんぽぽ広場2会場と施設型1会場を受託運営する。

対人関係の障がいや精神発達の遅れ等が疑われる児とその保護者に早期療育的アプローチや相談、交流の場を提供し、児及び保護者の状況を把握するとともに、児に必要なと思われる療育の方向性を定め、保護者に適切な助言を行い、理解と受容を促し、適切な時期に適切な療育に結び付けていく場を提供する。

また、専門性の高い職員を派遣することで、早期療育の質をより高め、的確に児と保護者の状況を評価(スクリーニング)し、その児の将来を見据えた支援について助言・指導を行い、次の療育に結び付ける。児と保護者に必要な支援の第一歩となる場を提供する。

2 主な事業

2-1 たんぽぽ広場

項 目	事 業 内 容	計 画 件 数 等		
(1) 発達支援広場 (たんぽぽ広場)	コーディネーター1名、保育スタッフ4名を中心に、メインプログラム、自由遊び、ルピロスタッフとの事後カンファレンスを行い、各児と保護者の状況の把握、支援の方法、方向性について相談を行う。	センター 中央保健福祉	開催回数	40回
			参加組数	65組
			延べ参加組数	700組
			延べ人数	1,400人
		センター 浜北保健	開催回数	40回
			参加組数	65組
			延べ参加組数	700組
			延べ人数	1,400人

項 目	事 業 内 容	計 画 件 数 等
(2) 医師相談日	月1回、発達支援広場の医師相談日を開催し、希望者に医師相談を実施する。	各年12 回
(3) 心理相談日	月1回、発達支援広場の心理相談日を開催し、希望者に心理相談を実施する。	各年12 回
(4) 親同士の話し合いの会	月1回、発達支援広場参加者の親同士の話し合い日を開催し、話し合いのファシリテーターを親同士の話し合いアシスタントが務める。 親同士の話し合いアシスタントは、発達障がいのある児の親もしくは発達障がいに対する知識を有する人を公募または紹介にて依頼し、親同士の相談に乗る。	各年12 回
(5) 研修会・連絡会等の開催	他の発達支援広場関係団体と連携をとり、広場の業務内容や方向性、支援の方法、卒業児の動向等について情報交換を行い、広場の質の向上と統一に向けて相談を行う。	随時

2-2 施設型

グループ名	対 象 者	年 齢	実 施 回 数	グ ル ー プ 数 (定 員)
ぴよぴよ	発達障がい児及びそのリスク児とその保護者	1～2	60回/年	3グループ(各15組)
ひよこ	発達障がい児及びそのリスク児とその保護者	2～3	30回/年	1グループ(20組)

項 目	事 業 内 容	計 画 件 数 等	
(1) 発達支援広場 (施設型)	コーディネーター1名、保育スタッフ3名、臨床心理士1名を中心に開催し、朝の会、メインプログラム、帰りの会、事後カンファレンス、個別心理相談等を行う。実施にあたり、発達の課題に応じた対応を考慮しながら、参加児やその保護者が就園に向けた準備ができるよう、生活習慣の習得や集団生活への適応等を促すプログラムとする。 保護者が児の行動特性による対応に苦慮していることに十分に配慮し、不適切な対応や親子関係の歪みが生じないよう、児に対する保護者の対応や精神面での相談支援を行う。	開催回数	90 回
		参加組数	75 組
		延べ参加組数	720 組
(2) 他機関との連携	継続的な支援を行うため、児の特性やその家庭に必要な支援等について、参加児の紹介元機関や今後の通園予定機関と連携を図る。	随時	
(3) 研修会・連絡会等の開催	他の発達支援広場関係団体と連携をとり、広場の業務内容や方向性、支援の方法、卒業生の動向等について情報交換を行い、広場の質の向上と統一に向けて相談を行う。	随時	

7 相談支援事業所「シグナル」

[根拠法令等：障害者総合支援法第5条第17項、第77条第1項、児童福祉法第24条の28、
浜松市障害者相談支援事業実施要綱]

1 運営方針

地域の障がいのある児者及びその家族の福祉の向上を図り、自立した地域生活を営むことができるよう、生活、療育、教育、福祉、保健、医療に関する各種相談に応じる。専門的職員を配置し、相談支援を適切かつ効果的に行う。

2 重点項目

(1)児童福祉法に基づく障害児相談支援事業所として、障がい児に対する相談支援体制を強化する。
(2)発達医療総合福祉センターの障がい児支援に関する専門的な知識・技術を地域に還元するための窓口としての機能の充実を図る。

① 地域の専門職向けの研修会・事例検討会の開催及び出席。

② きょうだい会や学童フォーラム等の家族への福祉情報の提供など支援の充実を図る。

(3) NICU(新生児集中治療室)等から退院する際の小児在宅医療連携チェックリスト(仮称)を活用し、入院時から在宅まで安心して移行できるようコーディネート機能強化に努める。

新規

(4)障がい児(者)の居宅及び通所サービスについて、サービス等利用計画を作成する。

3 主な事業

項目	事業内容	計画件数等
(1)障害者相談支援事業	福祉サービスの利用に関する支援	3,000件 (延べ件数)
	社会資源の活用に関する支援	
	障害や病状の理解に関する支援	
	健康・医療に関する支援	
	不安の解消・情緒安定に関する支援	
	保育・教育に関する支援	
	家族関係・人間関係に関する支援	
	家計、経済に関する支援	
	生活技術に関する支援	
	就労に関する支援	
	社会参加に関する支援	
	余暇活動に関する支援	
権利擁護に関する支援		
(2)相談支援機能強化事業	専門的な知識を必要とする困難ケース等への対応	再掲 800件
	障害福祉サービス事業所等に対する専門的な指導、助言等に関する業務	60件
	教育機関・医療機関・企業・自治会等への助言等に関する業務	再掲 30件

項 目	事 業 内 容	計画件数等
(3) 住宅入居等支援事業	障がいのある人等の住宅入居に関する支援を行う。	数 件
(4) 相談支援事業所間の連絡調整	障がいのある児者への相談支援が円滑に行えるよう、他の相談支援事業所との連絡調整を行う。	50 件
(5) 指定特定相談支援事業 指定一般相談支援事業 指定障害児相談支援事業	障がいのある児者が障害福祉サービスを適切に利用することができるよう、相談に応じ、サービス利用計画を作成しモニタリングを行う。	690 件
(6) 療育事業	インテーク面接	600 件
	関係機関面談	※

※ (2)相談支援機能強化事業に含む

4 自主事業

項 目	事 業 内 容	計画件数等	
家族支援事業	らっこちゃんグループ	運動発達遅滞児の保護者対象の早期育児支援グループを開催する。	1 回以上
	きょうだいの会	当事者以外の家族を対象とした講演会・グループワーク等を開催する。	1 回以上
啓発事業	こども発達セミナー	一般市民を対象としたこどもの発達をテーマにした講演会を開催する。	1 回
地域との連携強化事業	医療機関、療育機関等との連絡会等	随時	
	保健師社会福祉課担当者等との連携強化	随時	

5 その他

項 目	事 業 内 容	計画件数等
(1) 園・学校等訪問支援	障がい児等を保育・教育する機関からの依頼により、専門職を派遣して支援方法の助言や技術支援等を行う。 ※児童発達支援センターひまわりで実施する保育所等訪問支援事業、保育所等巡回支援事業での支援は除く。	随時
(2) 家庭訪問等個別支援事業	浜松市が障害者相談支援事業所「シグナル」に委託している「浜松市家庭訪問等個別支援事業」において、虐待のおそれのある障害者の家庭に対して、重点的に訪問することにより、家族関係の修復や家庭の不安を解消し、障害者虐待の未然防止を図る。	12 件
(3) 他部門への技術支援	施設回診	30 回
	施設カンファレンス	10 回

8 発達相談支援センター「ルピロ」

[根拠法令等:発達障害者支援法第14条、浜松市発達障害者支援センター事業実施要綱]

1 運営方針

発達障がい児者やその保護者・家族に対して、ライフステージに対応した支援を行うために必要な技術、知識の提供とデータの蓄積を行う。

市民や各関係機関職員からの発達障がい児者に対する理解と支援を得られるように、情報発信、啓発、研修を行う。

2 重点項目

(1)相談者の増加に伴う相談待機期間の遅延に対応するため、相談支援対応職員を多く配置し、相談支援事業を充実させる。 **拡充**

(2)市民における発達障害の普及啓発を図るため、当事者団体や大学等の学術団体との連携の元で講演会や当事者との交流会を行う。 **新規**

(3)児童養護施設や障害児施設の職員向けの事例検討会を行い、福祉施設における発達障害児の検出力の向上や対応力の向上を目指す。 **新規**

(4)療育事業関連事業者向けの定期的な事例検討会を行う。 **新規**

(5)私立幼稚園職員向けのアセスメント研修会を行う。 **新規**

3 主な事業

項目	事業内容	計画件数等	
(1)相談支援・発達支援 拡充	発達障がいのある児者とその保護者・家族からの相談に応じて適切な情報提供や関係機関への紹介を行う。 また、各区役所での相談活動を行う。	4,000件 (延べ件数)	
(2)相談支援・就労支援	発達障がい者の就労に関して、職場定着、雇用拡大に向けての取り組みを行う。高校、専門学校、大学、当事者団体との連携による就労に関する啓発活動を行う。		
(3)関係施設及び関係機関等に対する普及啓発及び研修事業	研修講師派遣	20回	
	発達障がい児保健師研修会 (計1回)	講義	1回
		事例検討	1回
	発達障がい児保育者研修会 (計1回)	6日間コース	1コース
		公開講座	1回
フォローアップ研修		3回	

9 福祉センター

1 運営方針

福祉センターは在宅障がい者のニーズに応える日中活動施設として、「利用者及び地域から信頼される質の高いサービスの提供」を目指し、事業を実施する。

(1)笑顔で明るく接することで明るい雰囲気作りを心掛け、安心して日中活動を過ごしていただけるよう支援に努める。

(2)利用者や家族との面談を通じて意思を尊重し、将来像を見据えたサービスを提供する。

2 重点項目

(1)送迎車両の増車及び送迎ルートの見直しにより、利用しやすい環境を整備する。

(2)利用者アンケート(利用者満足度調査)を継続して実施し、この結果及びアンケートでの意見をもとに、さらなる利用者サービスの改善と向上に努める。

《実施施設》

生活介護・就労継続支援施設「かがやき」

就労継続支援施設「はばたき」

障害者生活介護施設「ふれんず」

地域活動支援センター「オルゴール」

児童発達支援センター「ひまわり」

《目標値》

各施設平均評価点3.4点(4点満点)

(3)施設職員の専門研修の充実

さまざまな障がい特性を持つ利用者へ質の高いサービスを提供するため、「福祉実践発表会」、「ケースカンファレンス」、障がい者虐待防止等の「施設職員研修」や「研修報告会」を実施し、職員の専門性を高め支援の充実に努める。

(4)地域の福祉人材の育成

社会福祉士や介護福祉士などの専門職をめざす学生実習を積極的に受け入れ、福祉人材の育成に努める。

(5)ボランティアの受け入れ

施設利用者の生活と地域の交流の充実を図るため、各施設のボランティア担当職員が協力し、ボランティアの受入を行う。さらに、ボランティアの活動意欲を高め、継続して参加することができるように、ボランティアの交流会を実施する。

(6) 中学生福祉体験の受け入れ

福祉に対する視野を広げるための福祉教育の一環として中学生福祉体験を受け入れる。

(7) 災害対策

施設毎で行なっている避難訓練の他、実践に即した避難所体験を実施する。また、非常災害時において、家族との連絡方法や送迎バス運行中の安全確保の方法を常に見直し、より確実なものにしていく。

3 自主事業

	事業内容	計画件数等
福祉講演会	地域住民の福祉への理解と向上に向けた取り組みとして、地域住民や施設職員等を対象に福祉講演会を開催し、住民の福祉への理解や施設との連携の推進を図る。	1回 50人

10 生活介護・就労継続支援施設「かがやき」

[根拠法令等：障害者総合支援法第5条第7項・第14項]

	定員	法定配置基準	所定配置基準	職員配置 予定人数	事業所管理者	サービス管理 責任者	合計
生活介護(パステル)	40	5:1	5:1	11	1	1	13
就労継続支援(グリーン)	10	7.5:1	6:1	2	生活介護と兼務	生活介護と兼務	2
合計	50	-	-	13	1	1	15

	開所日数	延べ利用者数	契約者数	1日平均利用者数	稼働率(%)
生活介護(パステル)	244	11,200	53	46	114.8
就労継続支援(グリーン)	244	2,500	10	10	102.5
合計	244	13,700	63	56	112.3

1 運営方針

利用者の人格を尊重し、一人ひとりが自立した日常生活・社会生活を営むことができるよう日々の生活の充実に努める。

《基本方針》

- ①障がいのある人とその家族が安心して生活できる場所であること。
- ②さまざまな経験を通じて、より豊かな生活を送れること。
- ③自分の気持ちを表現したり、自己決定・選択をすることを通して、主体的に生活できること。

(1)生活介護事業

食事や排泄等日常生活の支援、諸活動及び生産活動の機会の提供を行い、利用者が自立した日常生活を営むうえで必要な知識や技能を習得できるよう支援する。活動内容は、利用者及び保護者の意向を尊重するとともに、利用者のそれぞれの障がい特性に合わせた活動カリキュラムを提供する。

(2)就労継続支援事業(B型)

就労の機会を提供し、仕事を通して個々の心身の発達を促すとともに、社会体験、調理実習、レクリエーション等の機会を提供することで、利用者が社会生活を営むうえで必要な知識や技能を習得できるように支援する。また、作業能力、自立度が向上した利用者に対し、就労継続支援A型事業所、就労移行支援事業所、一般就労等への移行支援を行う。

2 重点項目

- (1)障がい特性や年齢に合わせたグループ活動及び個別支援に重点を置いて取り組む。 **拡充**
- (2)特別支援学校高等部卒業の新規利用者の受入れを重点的に行う。また、利用者に関わる機関(行政、医療機関、他障害福祉サービス事業所、相談支援事業所等)との連携、情報交換等を積極的に行い、家族支援も含めた包括的な支援に取り組む。 **拡充**
- (3)生産活動において、アート製品など個々の可能性や利用者の個性を生かした自主製品の開発や、「はばたき」との共同による商品開発に取り組む。 **拡充**
- (4)ボランティア確保のために、近隣の自治会や福祉系の学校と連携を図り、一日体験などを行う。 **新規**

3 主な事業

項 目		事 業 内 容
生 活 介 護 事 業	(1) 日常生活支援	個別支援プログラムに基づき、安全で快適な日常生活の支援(排泄、食事等)を実施する。
	(2) 諸活動	体育、音楽、創作、散歩、レクリエーション、部活動等生活に楽しみを感じる余暇支援を行う。
	(3) グループ別活動 拡 充	活動グループを1グループ増やし、さらに障がい特性、年齢層に応じた小集団活動を行う。(3グループ → 4グループ)
	(4) 生産活動支援	自主製品、下請作業活動を通じ、作業意欲の向上を図る。また、アート製品や革工芸製品の製作・販売に取り組む。
	(5) 社会体験活動	買い物、社会体験等を実施し、社会に適応できる力を高める。
	(6) 衛生管理・健康管理	体重・血圧測定、定期健康診断、歯科検診、医師回診等を行う。
	(7) 家庭との連携	連絡ノート、施設便りの発行、保護者面談等を行う。
	(8) 家族支援	行政、医療機関、他福祉施設との連携、情報提供等を積極的に行い、家族も含めた包括的支援を行う。
	(9) 地域との交流	アートプロジェクト、かがやき展覧会等を実施し、かがやきの活動を地域へ発信していく。
就 労 継 続 支 援 事 業	(1) 生産活動・就労支援 拡 充	<p>発達医療総合福祉センターの建物の清掃業務を一部請負い、利用者が社会参加をする機会を設ける。</p> <p>下請業務 地域の企業からの下請作業を行い、就労意欲の向上を図る。</p> <p>自主製品製作 地元企業との共同によるエコうちわの販売、アート製品、革工芸製品等の製作・販売、「はばたき」との共同による商品開発に取り組む。</p> <p>園芸業務 障害者優先調達推進法に基づく草刈業務やセンター内の園芸業務等を行う。</p> <p>工賃支給 工賃配分は、固定給、時間給、評価給を併用して支給する。</p>
	(2) 日常生活支援	個別支援プログラムに基づき、社会的自立を目指す上での必要な情報提供や個別支援を行う。
	(3) 社会体験活動	食事会、社会体験、レザー講習会を行う。
	(4) 一般就労支援	就職面接会・職場見学・職場実習等を促進し、一般就労に向けた支援を行う。
	(5) 衛生管理・健康管理	体重・血圧測定、定期健康診断、歯科検診、医師回診等を行う。
	(6) 家族支援	行政、医療機関、他福祉施設との連携、情報提供等を積極的に行い、家族も含めた包括的支援を行う。
	(7) 地域との交流	アートプロジェクト、かがやき展覧会等を通じ、かがやきの活動を地域へ発信していく。また、草刈業務等を地域の福祉施設で共同で取り組むことで交流を深める。

時 間	《生活介護日課》	《就労継続支援日課》
8:30	開所 送迎バス 運行	開所 送迎バス 運行
9:30 ~	個別活動	個別活動
10:00 ~ 10:30	送迎バス着、トイレ、着替え	送迎バス着、朝の会、更衣、作業準備
10:30 ~ 11:00	朝の会	清掃
10:45 ~ 12:00	作業、諸活動	受託作業、自主製品製作
12:00 ~ 13:00	昼食、昼休み	昼食、昼休み
13:00 ~ 14:00	作業、諸活動	清掃
14:00 ~ 15:00	更衣、リラックスタイム、帰りの会	受託作業、自主製品製作、レクリエーション
~ 16:00	個別活動 送迎バス 運行	個別活動 送迎バス 運行
17:15	閉所	閉所

1 1 就労継続支援施設「はばたき」

[根拠法令等：障害者総合支援法第5条第14項]

定員	法定配置基準	所定配置基準	職員配置 予定人数	事業所管理者	サービス管理 責任者	合計
20	7.5:1	6:1	4	1	1	6

開所日数	延べ利用者数	契約者数	1日平均利用者数	稼働率(%)
244	5,100	29	21	104.5

1 運営方針

利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、利用者に対して就労の機会を提供するとともに、生産活動その他の活動の機会の提供を通じてその知識及び技術の向上のために必要な訓練及び支援を提供する。

《基本方針》

- ①意欲を持って生産活動に取り組むための支援を行う。
- ②職場体験・実習等の一般就労のための支援を行う。
- ③生きがいを持った生活を送るための支援を行う。
- ④生活リズムを作り、健康の維持増進を図る支援を行う。
- ⑤地域社会の中で自立した生活を営むための情報提供と社会参加の支援を行う。
- ⑥作業を充実させ、ひとりあたりの工賃分配額を増やす。

2 重点項目

- (1) 相談支援事業所と連携をして、発達障がいや高次機能障がいの利用者を受け入れる。
また、専門研修の受講や関係機関とのネットワークを深めることにより、職員の専門性を向上させる。
- (2) 工賃向上計画により各作業の収益を分析し、戦略的に取り組むことで、静岡県の平均工賃を上回る支給額を目指す。 **拡充**
- (3) 「かがやき」との共同作業に取り組み、新たな商品開発に取り組む。
- (4) 近隣の農園などに協力を依頼し、仕入れ販売を充実させる。また、青果だけでなく、ドライフルーツの製造販売など新製品の開発、販売を行う。 **新規**
- (5) センター内での定期販売会「はばたき市場」を拡大するとともに、花屋や雑貨店など近隣の店舗に協力依頼し、陶芸製品などの販路の拡大を図る。 **拡充**
- (6) 喫茶「わいわい」にて新メニューの開発やサービス内容の充実に取り組み、売り上げ向上を目指す。
- (7) 就労能力が向上した利用者について、一般就労や就労移行支援事業所、就労継続支援 A 型事業所への移行を支援する。

3 主な事業

項目	事業内容	
(1) 社会生活支援	日常生活支援。サークル、体育館利用、社会体験等レクリエーション、余暇活動支援を充実する。 生活の自立、人間関係、健康管理、家庭状況等、利用者・家族のニーズを把握し、関係機関と連携をとりながら、支援を行う。	
(2) 生産活動 ・ 就労支援	軒花作業 ※販売数増加 7万本→7万5千本	
	陶芸作業 拡充	山野草鉢、花瓶、食器、箸置き、陶人形等の製作、販売を行う。また、近隣の雑貨店などに協力を依頼して、販路の拡大を図る。
	喫茶作業	喫茶「わいわい」の運営。期間限定メニュー、新メニュー、予約販売等により売上げ向上に取り組む。
	仕入れ販売	近隣の農園等に協力依頼し、仕入れ販売を充実させる。
	製造販売 新規	ドライフルーツの製造販売など新製品の開発、販売を行う。
	販売 共同作業 一般就労支援等	センター内外の販売に積極的に参加し、地域や関係団体との交流を図る。 かがやき(就労)と連携し、作業の共同受注、共同支援を行う。 就労ニーズがある利用者については、就職面接会・職場見学・職場実習等を促進し、一般就労や就労継続A型等への移行を目指す。
(3) 衛生管理・健康管理	身体測定、定期健康診断、歯科検診、医師回診等を行う。 加齢や障がいの進行等による体調の変化に留意し、個別支援計画に反映させていく。	
(4) 家族支援	面談、家庭訪問等でニーズを把握し、利用者の家族を支援する。 関係機関と連携を強め、家族を含めた包括的な支援を行う。	
(5) 地域との交流	作業所連合会「わ」の行事に参加し他施設との交流を図るとともに、作業や販売を通じて地域との交流を深めていく。また、軒花製作・販売を行っている他福祉施設との連携、協力も進めていく。	

時間	日課
8:30	開所 送迎バス運行
9:30 ~	個別活動 送迎バス運行
10:00 ~ 10:30	送迎バス着、朝の会、更衣
10:30 ~ 12:00	体操、作業
12:00 ~ 13:00	昼食、昼休み
13:00 ~ 14:35	作業
14:35 ~ 15:00	帰りの会、更衣
~ 16:00	個別活動 送迎バス運行
17:15	閉所

12 障害者生活介護施設「ふれんず」

[根拠法令等：障害者総合支援法第5条第7項]

定員	法定配置基準	所定配置基準	職員配置 予定人数	事業所管理者	サービス管理 責任者	合計
20	3:1	1.7:1	14	1	1	16

開所日数	延べ利用者数	契約者数	1日平均利用者数	稼働率(%)
244	5,110	33	21	104.7

1 運営方針

在宅の障がいのある人に対して、創作的活動等日中活動や生活援助等の支援を行い、利用者の自立と生きがいを高めること及び社会参加を促進することを目的とする。

《基本方針》

- ①利用者一人ひとりの個性を尊重し、生きがいを高め豊かな日中活動や社会参加活動を提供する。
- ②日常生活、社会生活に必要な基本的な生活習慣を身につけ、自立を促すための生活援助を行う。
- ③利用者の健康維持、増進のため家庭や関係機関と連絡をとり支援を行う。
- ④利用者の自主活動や自己決定を尊重した取り組みを支援する。

2 重点項目

(1)身体機能の維持・筋緊張の緩和、安楽な姿勢保持を目指して理学療法士との連携を図り、個々の状況に応じた機能訓練を日中活動に取り入れる。また、リハビリ計画を作成し、定期的にモニタリングを行い、その都度計画の見直しを実施する。

(2)クラブ活動(写真部・乗り物部・おしゃべり部等)を開始し、自己表現できる場を提供する。 **拡充**

(3)利用者一人ひとりが生きがいや喜びを感じ、利用者が自己選択できる場を増やすと共に利用者の能力を引き出すように日中活動の充実を図る。

(4)スノーズレン活動の中にサイド・グロウ(スノーズレン機材)を導入し、多様な光刺激や触覚の刺激を広げ、心地良さと筋緊張の緩和などのリラクゼーションを提供する。また、振動や揺さぶりなどの動きのあるボールプール、パラシュート、エアーマットなどを利用すると共に、香りや楽器の種類を増やすことで活動性を高め活性化する内容を組み入れて活動する。 **拡充**

(5)利用者の健康維持を目指して医師や家族との連携を図り、適切なケアや生活支援を提供する。また、身体の異常の予防・早期発見ができるように常に利用者の身体状況を把握していく。

(6)利用者の希望により、利用時間を延長し、利用者・家族のニーズに応える。

(7)介護福祉士及び介護職員等による喀痰吸引等研修へ職員を計画的に受講させ、医療的ケアの必要な利用者に対する介護技術の取得に努める。

3 主な事業

項 目	事 業 内 容
(1) 日常生活支援	移動、移乗、排泄、食事、歯磨き等日常生活に必要な援助を行う。
(2) 機能訓練	理学療法士の指導に基づき、機能訓練・姿勢保持の工夫を行う。 リハビリ計画を作成し、定期的にモニタリングを行い、計画の見直しを実施する。
(3) 日中活動 拡充	と 自主性や自己決定を尊重した活動を支援する。(散歩、製作、ゲーム、カラオケ、喫茶等) も また、新たにクラブ活動(写真部・乗り物部・おしゃれ部等)を開始する。 ゆ 身体状況や個性を尊重し、満足感や達成感を得られるような活動を支援する。(散歩、音楽、ゲーム、絵本の読み聞かせ、足浴、手浴) う また、スノーズレン活動に新機材(サイド・グローウ)を導入し、光刺激や触角の刺激を広げる。 合同活動、シアター鑑賞を行う。
(4) 生産活動支援	折り染め製品作り、販売 個人の特性や能力に合わせた作業内容・作業工程を工夫する。
(5) 衛生管理・健康管理	定期健康診断、歯科検診、医師回診等を実施する。バイタルチェック、体位交換、ポジショニングを随時行う。医師の指示のもと、看護師及び研修を修了した支援員が医療的ケアを実施する。
(6) 家庭との連携	毎月の通信、個別面談、連絡帳記入、家族懇談会等を実施し、家庭と連携をとりながら支援を行う。
(7) 家族支援	地域生活を送る上での様々な問題に対して、家族や関係機関と連携をとり支援していく。
(8) 地域との交流	地元企業、他施設との交流を行う。

時 間	日 課
8:30	開所 送迎バス 運行
9:30	個別活動
10:00 ~ 10:30	送迎バス着、朝の会 水分摂取、健康チェック
10:30 ~ 12:00	午前の活動
12:00 ~ 13:00	昼食、昼休み
13:00 ~ 14:00	午後の活動
14:00 ~ 15:00	帰りの会、水分摂取
~ 16:00	個別活動 送迎バス 運行
17:15	閉所

※延長希望がある場合は、17:15まで対応

1 3 地域活動支援センター「オルゴール」

[根拠法令等:障害者総合支援法第 77 条第 1 項、浜松市地域活動支援センターⅡ型事業実施要綱]

定員	職員配置 予定人数	事業所管理者	合計
15	4	1	5

開所日数	延べ利用者数	契約者数	1日平均利用者数	稼働率(%)
243	3,640	67	15	100

1 運営方針

浜松市の地域生活支援事業の一つである地域活動支援センターⅡ型事業を受託し、地域において就労が困難な在宅の障がいのある人に、創作活動や機能訓練的活動、買物や外食のための外出等を実施することで社会参加の機会を提供し、利用者が自立した社会生活を営むことができるよう支援する。

また、趣味や見聞を広げることで生活の質を向上させ生きがいを高めることができるよう適切かつ効果的に支援する。

2 重点項目

- (1) 利用者の「障がい程度」や「特性」を考慮し、適切な支援を提供する。
- (2) 発達障がいや難病の方にも利用しやすい施設運営を行う。
- (3) 社会参加への促進として、近隣の小中学校と連携して福祉交流会を実施する。
- (4) 外出活動、障がい者団体の主催するイベント、地域のイベント参加、近隣の他事業所との施設交流会を行うことで、在宅障がい者の社会参加の機会を設ける。**拡充**
- (5) 生活支援の一環として個別の調理実習を行うなどして、自立を支援する。
- (6) 利用者宅への送迎サービス及び送迎ルート調整を図る。

3 主な事業

項 目	事 業 内 容	計画件数等
(1) 日常生活支援	移動、移乗、食事、排泄、入浴、足湯、洗髪などの日常生活支援を行う。	随時
(2) 諸活動	ボッチャ、ストレッチ体操、クッキング(集団・個別)、喫茶タイム、創作的活動等を行い、知識・教養の向上やお互いの交流を深めていく。	
(3) オルゴール教室	各種教室(太極拳、お習字教室、パソコン教室、手芸教室、歴史教室等)を開催し、趣味や見聞を広げたり、技術の向上を目指し、生活の質の向上を目指す。	244 回 1,952 人
(4) 衛生管理・健康管理	体力測定、バイタルチェック等を行い、利用者の健康管理を行う。	
(5) 家族との連携	必要に応じて、連絡ノートによる情報交換を行う。家族相互の交流の場を提供する。	
(6) 社会体験	お花見や絵手紙展見学、美術鑑賞、講習会参加等のための外出をする。買い物体験や外食体験、他施設との交流等により地域に出かけることで障がいのある方が生活しやすい社会を目指す。	
(7) 地域との交流 拡 充	小学生や中学生との福祉交流会や作品募集及び作品展示会の開催、他施設との交流や地域のイベントへの参加を積極的に行う。	
(8) その他	高校生実習受け入れ、福祉系学生実習受け入れ、ボランティア受け入れ	

時 間	日 課
8:30	開所、送迎バス運行
9:30 ~	自己通所者到着
10:00	送迎車両到着、バイタルチェック
10:30 ~ 11:30	朝の会、日中活動・教室
11:30 ~ 13:00	昼食、口腔ケア、昼休み
13:00 ~ 14:45	日中活動・教室
14:45 ~ 15:00	帰りの会
15:00	帰宅、送迎バス出発
17:15	閉所

1 4 身体障害者福祉センター

[根拠法令等：身体障害者福祉法第 31 条]

1 運営方針

地域の障がいのある人の社会参加、教養の向上、健康の増進を図るため、創作的活動・スポーツ・教養娯楽等の事業を実施する。また、地域社会との交流を図り、レクリエーションのための便宜の供与等の事業を行う。

2 重点項目

(1)身体に障がいのある人を対象としたアート講座を通年で実施する。

新規

(2)親子スイミング等親子で参加できる講座の回数を増やして実施する。

拡充

3 主な事業

項 目	事 業 内 容		計画件数等	
(1)機能訓練、教養の向上	教養の向上や技術の習得、趣味・余暇活動の充実を支援するため、各種講座を開催する。	編み物	全 8 回×3 期 定員 20 人	24 回 290 人
		囲碁	全 5 回×3 期 定員 10 人	15 回 45 人
		カラオケ	全 8 回×3 期 定員 20 人	24 回 340 人
		水泳・スポーツ	全 8 回×3 期 定員 20 人	24 回 280 人
		書道(2 クラス)	全 8 回×3 期 定員 20 人	48 回 480 人
		健康吹き矢	通年 定員 15 人	22 回 260 人
		英会話	通年 定員 10 人	10 回 50 人
		フラワーアレンジメント等	全 2 回 定員 13 人	2 回 25 人
		拡充 障がい者スポーツ「ボッチャ・ミニ大会」等	全 3 回	3 回 90 人
		拡充 親子スイミング等	通年 定員 20 人(10 組)	27 回 370 人
新規 アート・アート	通年 定員 10 人	18 回 160 人		
(2)レクリエーションのための便宜の供与	講座OBグループへの継続活動支援		51 回 612 人	
(3)地域との交流	障害者週間等の作品展示 (浜松市役所・西区役所・遠鉄百貨店)		3 回	
	利用者及び地域の親子を対象として浜松 16 ミリ映画技術協会と「夏休み 16 ミリフィルム上映会」を実施する。		2 回	
	ボランティアとの交流会を実施する。		1 回	
	中学生福祉体験の受け入れをする。		5 回	
(4)作品募集	浜松市内全域の障がいのある人から全国身体障害者総合福祉センター主催の「障がい者による書道・写真全国コンテスト」の作品を募集し、とりまとめを行う。		1 回	

15 障害者体育館・プール

1 運営方針

発達医療総合福祉センター各施設の訓練、療育、日中活動等による利用のほか、施設の有効利用のため、在宅の障がいのある児者への一般開放及び障がい児者団体への貸出を行う。

2 重点項目

(1)温水プール一般開放は、4月から11月まで月・火・水・金・土曜日に開放を行う。

12月から3月まで月・火・金曜日に開放する。

(2)予約による団体貸出を行なう。

3 主な事業

項目	事業内容	内容	計画件数等
(1)センター内利用	発達医療総合福祉センター内の施設・療育における体力づくり、訓練の場として利用する。	体育館	利用日数 200日 延べ利用者数 6,000人
		温水プール	利用日数 100日 延べ利用者数 2,100人
(2)障がい児者利用	「子ども」と「大人」に分けて一般開放する。 また、春休み、夏休みの特別開放を行う。	体育館	利用日数 50日 延べ利用者数 200人
		温水プール	利用日数 170日 延べ利用者数 2,200人
(3)障がい児者団体への貸出	事前予約による障がい児者団体への貸し出しを行う。	体育館	利用日数 150日 延べ利用者数 8,000人
		温水プール	利用日数 150日 延べ利用者数 1,600人

※人数には介助者を含みます。

16 共通事業

1 主な事業

項目	事業内容																																									
(1) 交通機関の確保	シャトルバス運行	遠州西ヶ崎駅～発達医療総合福祉センター間の無料シャトルバスを運行する。 西ヶ崎駅⇒発達医療総合福祉センター(1日4便) 発達医療総合福祉センター⇒西ヶ崎駅(1日4便)																																								
	福祉バス	浜松駅～発達医療総合福祉センター間を運行する。 (1日1便、車椅子4台利用可) 年間 2,440人																																								
	施設等利用者送迎	市内をコース別に分けて利用者の送迎を行う。利用者の安全確保のため職員1名が添乗する。																																								
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>運行日数(日)</th> <th>実乗車人数(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>かがやき(生活)</td> <td>244</td> <td>51</td> </tr> <tr> <td>かがやき(就労)</td> <td>244</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>はばたき</td> <td>244</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>ふれんず</td> <td>242</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>ひまわり</td> <td>225</td> <td>79</td> </tr> <tr> <td>オルゴール</td> <td>243</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>225</td> </tr> </tbody> </table>	施設名	運行日数(日)	実乗車人数(人)	かがやき(生活)	244	51	かがやき(就労)	244	10	はばたき	244	24	ふれんず	242	21	ひまわり	225	79	オルゴール	243	40	合計		225																
施設名	運行日数(日)	実乗車人数(人)																																								
かがやき(生活)	244	51																																								
かがやき(就労)	244	10																																								
はばたき	244	24																																								
ふれんず	242	21																																								
ひまわり	225	79																																								
オルゴール	243	40																																								
合計		225																																								
(2) 給食・レストラン	<p>給食においては、普通食以外に嚥下障害を対象としたまとまり食や胃ろう食、肥満を対象としたダイエット食やアレルギー除去食を提供することにより、給食利用児者個々の身体状況に適した給食を提供する。</p> <p>レストランにおいては、多くの人に利用してもらうことを目的に、メニューの見直しを行い、広く利用を呼びかける等PRに努める。</p>																																									
	<p>ア 栄養給与目標量(給食)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>エネルギー(kcal)</th> <th>蛋白質(g)</th> <th>脂肪(g)</th> <th>カルシウム(mg)</th> <th>鉄(mg)</th> <th>ビタミンA(ug)</th> <th>ビタミンB1(mg)</th> <th>ビタミンB2(mg)</th> <th>ビタミンC(mg)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>成人(普通食)</td> <td>653</td> <td>25.4</td> <td>16.2</td> <td>241</td> <td>3.5</td> <td>504</td> <td>0.5</td> <td>0.5</td> <td>53</td> </tr> <tr> <td>成人(ダイエット食)</td> <td>524</td> <td>19.8</td> <td>13</td> <td>224</td> <td>2.7</td> <td>455</td> <td>0.4</td> <td>0.43</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>幼児(普通食)</td> <td>387</td> <td>14.3</td> <td>9.3</td> <td>192</td> <td>2</td> <td>341</td> <td>0.32</td> <td>0.39</td> <td>32</td> </tr> </tbody> </table>		区分	エネルギー(kcal)	蛋白質(g)	脂肪(g)	カルシウム(mg)	鉄(mg)	ビタミンA(ug)	ビタミンB1(mg)	ビタミンB2(mg)	ビタミンC(mg)	成人(普通食)	653	25.4	16.2	241	3.5	504	0.5	0.5	53	成人(ダイエット食)	524	19.8	13	224	2.7	455	0.4	0.43	50	幼児(普通食)	387	14.3	9.3	192	2	341	0.32	0.39	32
区分	エネルギー(kcal)	蛋白質(g)	脂肪(g)	カルシウム(mg)	鉄(mg)	ビタミンA(ug)	ビタミンB1(mg)	ビタミンB2(mg)	ビタミンC(mg)																																	
成人(普通食)	653	25.4	16.2	241	3.5	504	0.5	0.5	53																																	
成人(ダイエット食)	524	19.8	13	224	2.7	455	0.4	0.43	50																																	
幼児(普通食)	387	14.3	9.3	192	2	341	0.32	0.39	32																																	
	<p>※ 昼食のみの提供となるため、一日の栄養所要量の33%を基準に提供する。</p>																																									

項目	事業内容	計画件数等																												
	<p>イ 施設別給食利用予定数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>定員</th> <th>年間利用日数(日)</th> <th>1日平均提供食数(食)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>かがやき(生活)</td> <td>40</td> <td>238</td> <td>44.0</td> </tr> <tr> <td>かがやき(就労)</td> <td>10</td> <td>234</td> <td>9.3</td> </tr> <tr> <td>はばたき</td> <td>20</td> <td>239</td> <td>19.5</td> </tr> <tr> <td>ふれんず</td> <td>20</td> <td>241</td> <td>17.8</td> </tr> <tr> <td>ひまわり</td> <td>70</td> <td>225</td> <td>67.0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>160</td> <td>1,177</td> <td>157.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>ウ その他 給食の摂取状況把握や情報提供等を行う。</p> <p>エ 栄養相談指導 外来患者の栄養指導、施設利用者の栄養相談等を行う。</p> <p>オ レストランの利用予定数(年間244日、22,082食)</p>	施設名	定員	年間利用日数(日)	1日平均提供食数(食)	かがやき(生活)	40	238	44.0	かがやき(就労)	10	234	9.3	はばたき	20	239	19.5	ふれんず	20	241	17.8	ひまわり	70	225	67.0	合計	160	1,177	157.6	
施設名	定員	年間利用日数(日)	1日平均提供食数(食)																											
かがやき(生活)	40	238	44.0																											
かがやき(就労)	10	234	9.3																											
はばたき	20	239	19.5																											
ふれんず	20	241	17.8																											
ひまわり	70	225	67.0																											
合計	160	1,177	157.6																											
(3) ボランティア活動 受け入れ	発達医療総合福祉センター内でのボランティア希望者の受け入れを行う。	930 人																												
(4) 施設見学	発達医療総合福祉センター全体の見学を希望する団体の受け入れを行う。	10団体 165 人																												
(5) 自動販売機の 設置	利用者に対するサービスの提供のために清涼飲料自動販売機の設置を行う。	6 台																												

2 自主事業

(1) はままつ友愛の さと祭り	発達医療総合福祉センターを開放し、地域の方との交流を深め、発達医療総合福祉センター事業や障がいについて理解を深めてもらうことを目的に開催する。(年1回)
(2) はままつ友愛の さと作品展	発達医療総合福祉センター展示ロビーにて、利用者が製作した作品を展示し、日頃の活動の成果を広く地域の方に発表する。(年1回)